



災害に対する知恵や教訓を 後世に伝えていくための 取組を進めています。



～地域の自助・共助を後押しし、地域防災力の向上をはかるために～

はじめに

天竜川上流河川事務所では、天竜川総合学習館かわらんべ、信州大学附属図書館、有識者などと協力して、後世に引き継がれずに散逸や風化の恐れがある災害に備えるための知恵や教訓などを示す情報資源を収集及び整理し、オリジナル資料などを収蔵するとともに、劣化しないデジタル情報で記録し、公開することを目的とした取組を進めています。

伊那谷地域全体

語り継ぐ“濁流の子”

～災害教訓伝承活動の促進を目指して～

↑
他の地域へ
情報発信

天竜川総合学習館かわらんべ

～語り継ぐ“濁流の子”文庫（仮称）～

【役割分担】

資料の収集整理、オリジナル資料等の収蔵

信州大学附属図書館

～語り継ぐ“濁流の子”アーカイブス～

【役割分担】

デジタルアーカイブスの保存及び公開

天竜川上流河川事務所

【役割分担】

収集整理した資料のデジタルアーカイブス化

天竜川上流域における災害

三六災害

昭和36(1961)年6月梅雨前線豪雨

昭和36年6月23日、梅雨前線の停滞に伴い、その雨は降り出しました。台風6号が接近し、26日から集中的な豪雨へ変貌。翌27日には、わずか1日にして6月の月間平均雨量を超えるほどの雨量を記録。伊那谷の各所で堤防の決壊、土石流が崩れ、大鹿村での山津波が集落を直撃しました。何十年に一度か百年に一度くらいにしか起きないといわれるほどの大災害となりました。



鹿塩川、北川分校付近の氾濫状況（大鹿村北川）

資料の収集整理

天竜川総合学習館かわらんべに設置する「語り継ぐ“濁流の子”文庫（仮称）」に、複製した「濁流の子」を含む三六災害に関連した図書や写真などを収蔵し、公開を予定しています。

「濁流の子」とは

1961（昭和36）年に伊那谷を襲った三六災害（土砂災害と大規模な河川氾濫）で被災した当時の小中学生・高校生が思いを綴った作文集です。



収集を予定している資料

- 災害に関する図書
- 災害時の報道記事（新聞等）
- 災害時の写真、映像
- 災害当時の図面 等



インターネットでの情報公開

信州大学附属図書館により管理されるホームページ「語り継ぐ“濁流の子”アーカイブス」を通じて、インターネット上に「濁流の子」を含む三六災害に関する資料や写真などを公開しています。なお、「濁流の子」については、冊子のスキャニング画像、及びテキストデータ（パソコンで入力した文字情報）の公開しています。

語りつぐ

“濁流の子”アーカイブス

「語り継ぐ“濁流の子”アーカイブス」

URL : <http://lore.shinshu-u.ac.jp/>

